

米国下院議員が USTR へ TRIPS 交渉についての書簡を提出  
～ 遺伝資源等出所開示に反対～

2006 年 4 月 19 日  
JETRO NY 澤井、中山

米国通商関係情報誌によると、米国下院議員 4 名が 4 月 4 日付けでポートマン USTR 代表あてに書簡を提出し、ブラジル、インド等より要請される TRIPS 協定における遺伝資源等の出所開示に関する議論について深刻な懸念を表明。併せて、本件に関し、大統領のファストトラック権限を牽制するとともに、特許制度を弱体化 (undermine) するいかなる貿易協定も支持しない (not worthy of our support) としている。(なお、ブッシュ大統領は、18 日、ポートマン代表を、ボルテン前行政管理予算局 (OMB) 局長の大統領首席補佐官への起用に伴い、新 OMB 局長に指名する人事を発表したところ。新 USTR 代表には、シュワブ現次席代表が、上院の承認を経て就任する見通し。)

書簡の提出者は、センセンブレナー司法委員長、コンヤース同ランキング委員、グッドラッテ農業委員長 (兼司法委員)、ハイド国際関係委員長 (兼司法委員) の 4 名。なお、センセンブレナー委員長以外の 3 名は知的財産等小委員会にも属している。

また、同書簡では、特許法改革は米国における重要な案件 (serious matter) であり、司法委員会が取り組む中心的事項であると位置付けており、同委員会において慎重に検討されていること、知的財産が米国経済と国際競争力に重要であること等が説明されている。

(了)